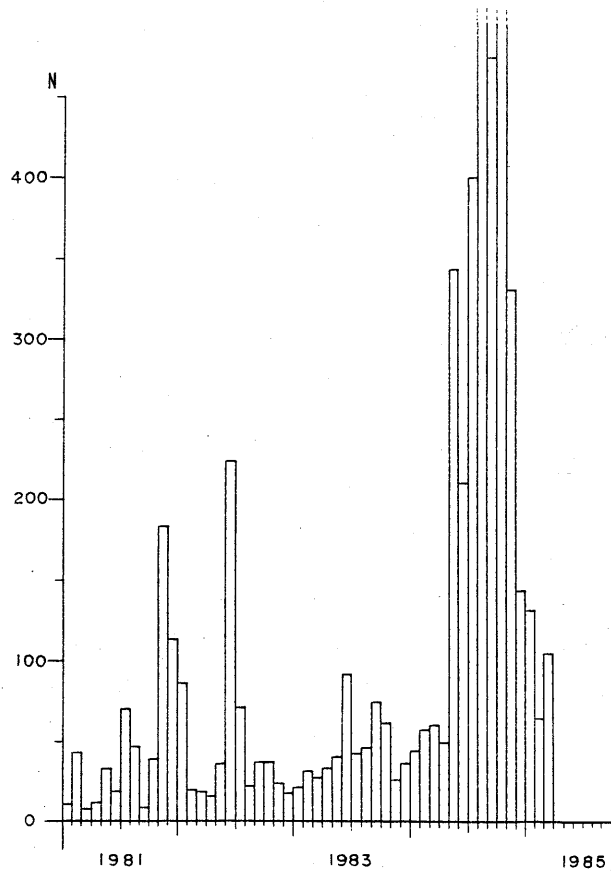


1984年8月島原半島西部で発生 した地震の余震活動について*

九州大学理学部附属
島原地震火山観測所

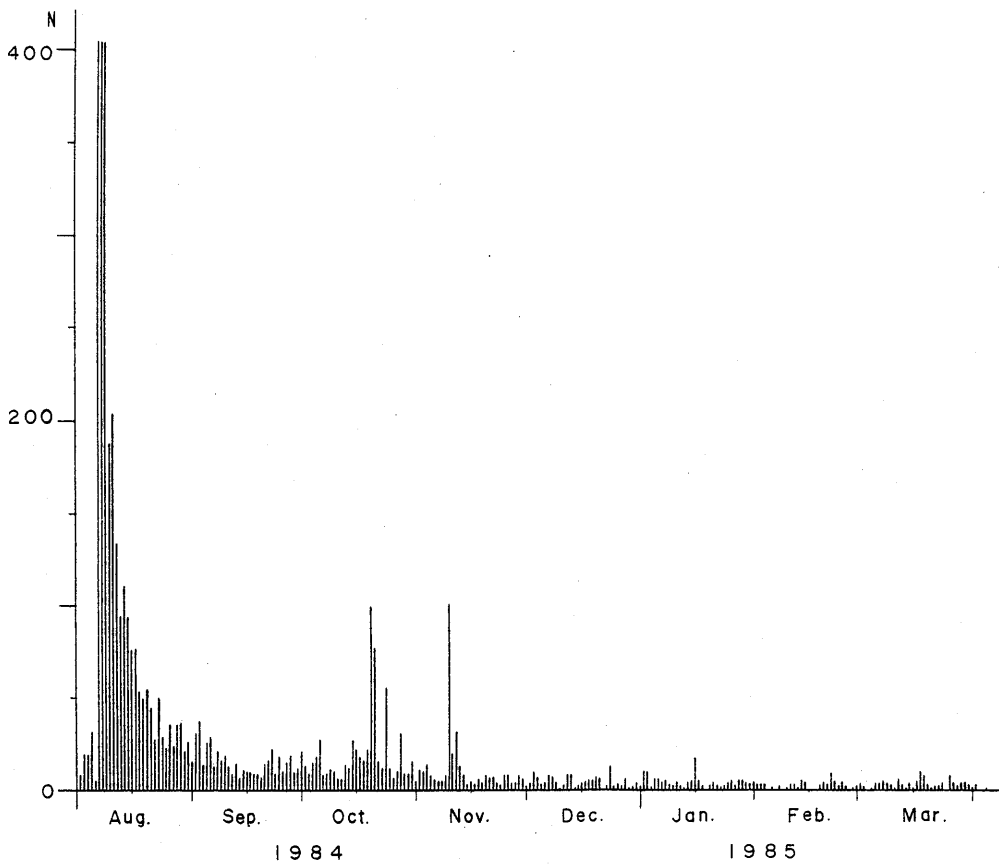
1984年8月6日を頂点とする島原半島西部で発生した一連の地震活動は、月別発生回数の推移（第1図）をみる限り、1985年3月現在、まだ余震活動の範囲にあると考えられる。



第 1 図 月別地震発生回数の推移

Fig.1 Monthly frequency of earthquakes at Unzen Volcano,
Shimabara Peninsula.

* Received Apr. 30, 1985



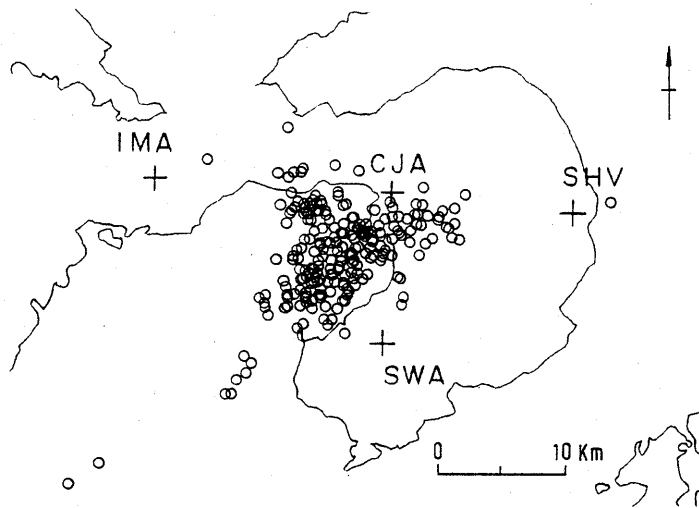
第 2 図 日別地震発生回数の推移

Fig.2 Daily frequency of earthquakes at Unzen volcano, Shimabara Peninsula.

それらの概略を、第 2 図の日別発生回数および第 3 図の震央分布図で示す。

1984 年 8 月～1985 年 3 月の千々石湾付近の地震活動は、震央域が次の 3 つのグループに大別される：
 (1) 8 月 6 日の群発活動域である猿葉山南麓付近を中心とする区域、(2) 8 月 9 日頃から頻発しはじめた千々石湾東南部区域、(3) 千々石湾北部沿岸区域。

また、余震活動が次第に静穏化して行く過程で、1984 年 10 月 19 日とその前後約 10 日間および同年 11 月 9 日とその後の約 3 日間に、やや目立った活動がみられた。前者の震央域は猿葉山西麓で、8 月の震央域内にあり、後者はそれまでの活動域とやや離れた千々石湾北部沿岸区域であった。



第 3 図 余震震央分布 (1984 年 9 月—1985 年 3 月)

Fig.3 Epicenters of after-shocks occurring from September, 1984 to March, 1985.